

## たじみん昼話 77

### 転勤される先生からのメッセージ

3月25日に離任式があった。今年も多く先生方が退職や転出をされた。式では、先生方から在校生に向けて、温かい最終メッセージが伝えられた。桔梗なりにまとめたので振り返ってみよう。

K先生:甲子園へ行って応援したことが一番の思い出だ。私は、いつもこうなって欲しいという想いを持って教育に携わってきた。日々のボヤキは、その強い思いが言葉に変換されたものだ。苦言を嫌がらず真意を見抜いて自らの力にして行って欲しい。

D先生:もがくカメの姿は、周囲の常識に縛られて自分の思いを押し殺して生きている、今の自分そのものだった。そして真の自由な自分であるために、全ての物事を自己決定すべきだと気付かせてくれた。人生は自己責任がある選択の連続だ。忘れないで欲しい。

校長先生:県下の高校の中でも、多治見高校は素晴らしい学校だ。しかし授業は先生と生徒で成立する。授業は、五感をフル活用しないと本当の変化が分からないイチョウ観察のように、生きて流動的である。先生と生徒で真剣に勝負してより良い授業にしよう。

I先生:希望していた特別支援教育の伝道師の仕事を、次の職場でやれることになった。今は、早くやりたくてワクワクしている。人間活動の原動力は、このワクワクだ。勉強も「やらせられる」ではなく、ワクワクで取組もう。

O先生:考査を採点しながら、「授業でやったことがなかなかできない」、とここ数年強く思う。これは壁に当たった時の乗り越えようとするチャレンジ精神に課題があると思う。自ら開拓して欲しい。

H先生:私の専門はハンドボールだ。高校時代に、全国大会出場への夢の前に唯一立ちはだかってきた学校が転勤先だ。高校時代から、勝ちたかった相手だったので、今は複雑な思いだ。でも、切り替えて新しい道へ進む。

I先生:違う人と関わるから人生は楽しい。私も様々な出会いがあった。でも、その心構えのおかげで、次の職場での出会いにワクワクしている。人との違いを認めることは自分の個性を大切に自分で自信を持つことに繋がるよ。

K先生:胸の中に閉じ込めていたものや痛みを、お互いに伝えあい守り合おう。それが怖いときもあるだろう。それでもその痛みは時とともに流れていき、やがては思い出になるだろう。だからお互いに寄り合う気持ちでいよう。

N先生:「遅刻をしない。一生懸命取り組む。目標を真剣に考える。」という奇跡を、毎日多く起こしている私たちは凄い存在です。そんな凄い自分が落ち込んだときは、小さな頑張りを褒めましょう。奇跡で来た高校で、さらにたくさんの奇跡に触れてくださいね。

先生方は皆さんの人生に役立ちたいと強く思って多治見高校に勤務されてきました。奇跡の出会いに感謝し、この想いを日々の生活に活かしていきましょう。先生方、有難うございました。